

科目名		物質工学実験 (Exp. in Industrial Chemistry)							
学年	学科(コース)	単位数	必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第4学年	物質工学科 (物質コース)	履修 2単位	必修	実験	1/3年 270分/週	60時間			
担当教員		【常勤】物質工学科各教員							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	次の2点が到達レベルである。 (1)自主的に課題への取組ができる。 (2)実験手法を習得して実施し、実験結果を整理・解析して報告書が作成できる。								
学習・教育目標	(A)②	JABEE基準1(2)	(d)-(4)						
関連科目、教科書および補助教材									
関連科目	無機化学実験、有機化学実験、生物化学実験、微生物学実験、物理化学実験、化学工学実験								
教科書									
補助教材等									
達成度評価 (%)									
(1)自主的に課題への取組ができる。	(1)課題への取組によって評価する。						20		
(2)実験手法を習得して実施し、実験結果を整理・解析して報告書が作成できる。	(2)実験結果をまとめた報告書の内容(目的、方法、結果、考察)によって評価する。						80		
評価方法	(1)課題への取組	(2)レポート	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合									
総合評価割合	20	80							100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎							/
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】		○							
汎用的技能 【 】	○ 課題発見	◎ 情報収集・活用・発信力							
態度・志向性(人間力) 【主体性】	◎								
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									
学習上の留意点，学習上の助言									
各教員に配属され、与えられた課題の実験を行う。講義・実習で習得した知識・技術を活用して、与えられた課題を実験的に検証して解決する能力を養う。具体的には、実験を計画して実施し、その結果を解析して整理し報告書を作成する。卒業研究での実験計画や実験技術へ発展させる。									

授業の明細	
具体的な行動達成目標	
下記のテーマから取り組む研究課題を選択して、1/3年間実験に取り組む。実験を計画して実施し、その結果を解析して整理し報告書を作成できるようになる。卒業研究での実験計画や実験技術へ発展できる。	
教員	調査研究の課題
福地 賢治	(1)吸着平衡(気相・液相)の実験 (2)無限希釈活量係数の測定 (3)燃料電池の作製および性能試験
小倉 薫	(1)有機化合物の合成実験 (2)有機化合物の精製実験 (3)有機薄膜の積層化実験
山崎 博人	(1)機能性高分子の合成実験 (2)高分子の物性測定実験 (3)生体触媒の固定化実験
根来 宗孝	(1)蛋白質の単離・精製実験 (2)インターラクトーム解析実験 (3)バイオセンサ(グルコース濃度測定系)応用実験
中野 陽一	(1)マイクロサテライト法を用いたアマモ群落分析実験 (2)貧酸素水塊シミュレータを用いた、貧酸素水塊再現実験 (3)アオコロ過装置を用いたろ過実験
廣原 志保	(1)糖誘導体の合成実験 (2)光増感剤の合成実験
茂野 交市	(1)セラミックスの合成実験 (2)セラミックスの特性評価実験 (3)セラミックスの分析実験
高田 陽一	(1)界面活性剤の精製実験 (2)表面張力の測定実験 (3)エマルジョンの調製実験
三留 規誉	(1)DNAの抽出実験 (2)酵素活性の測定実験 (3)大腸菌の形質転換
島袋 勝弥	(1)光学顕微鏡での微生物・細胞の観察 (2)電子顕微鏡の試料作成法 (3)タンパク質の基礎的な生化学実験
杉本 憲司	(1)製鋼スラグの溶出実験 (2)製鋼スラグの表面組成実験 (3)海草類の生体反応実験
友野 和哲	(1)電気化学的手法による薄膜作製と電気化学特性 (2)薄膜のX線構造解析による評価 (3)薄膜の分光分析による評価
総授業時間数	
60 時間	